2019 年 10 月 15 日
株式会社海遊館　広報チーム
〒552-0022　大阪市港区海岸通 1
TEL06-6576-5529　FAX06-6576-5551
https://www.kaiyukan.com/
（担当：村上、新谷、林、山田、柿本）

ジンベエザメを搬入・搬出し、まだ判っていない回遊経路を調査します。

大阪市港区の海遊館では、2019 年 10 月 18 日（金）に「太平洋」水槽にて飼育展示している 2 匹のジンベエザメのうちの 1 匹（愛称：海、オス、推定年齢 8～9 歳、全長 5m47cm、推定体重 1,200kg）を搬出し、翌 19 日(土)に小型の記録装置（データロガー）を装着した後、故郷である太平洋へ放流し、自然の海での回遊経路の調査を開始します。また同日、高知県土佐清水市の「大阪海遊館 海洋生物研究所以布利センター」（以下、以布利センター）で飼育中のジンベエザメ（オス、推定年齢 4～5 歳、全長 4.2m、推定体重 700kg）を特製の水槽と大型トレーラーを用いた陸上輸送にて「太平洋」水槽に搬入し、翌 2019 年 10 月 19 日（土）より一般公開いたします。

回遊経路調査を実施するジンベエザメは 2015 年 6 月 14 日に高知県室戸市の定置網に入網し、同月 16 日に以布利センターに収容しました。その後、2016 年 7 月 22 日より海遊館の「太平洋」水槽にて展示し、約 3 年 3 か月の間、多くのお客様に驚きと感動を与え、飼育下における生理生態、ゲノムなどを研究してきました。今回の回遊経路調査は 1 ヶ月間および 1 年間の二通りを予定しており、ジンベエザメの生態解明に役立てたいと考えております。

一方、搬入するジンベエザメは 2019 年 9 月 1 日に高知県室戸市の定置網に入網し、9 月 3 日に以布利センターに収容した後、健康管理に伴うトレーニングや血液検査などを続けてきました。この度、海遊館の「太平洋」水槽でも生態研究を継続してまいります。

海遊館では、ジンベエザメにおける研究のフィールドを自然の海と飼育下の両方におくことで、いまだ大部分が未解明であるジンベエザメの生態解明に役立て、保全活動への貢献に尽力いたします。また、迫力あるジンベエザメの姿をより多くの方々にご覧いただくことで、自然や生物への興味・感動を育み続けてまいります。

【取材について】

取材をご希望の方は、事前に海遊館広報チームまでご連絡ください。天候や交通情報によりスケジュールが変更になる場合、詳細を適時ご連絡させていただきます。

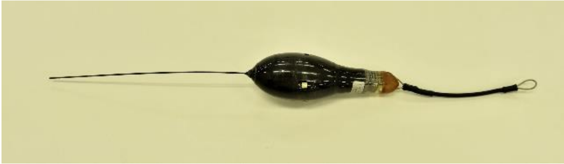
※撮影可能個所が大変複雑になっております。事前の下見をお勧めします。
※海上での放流作業は撮影できません。

連絡先：海遊館広報チーム　　06-6576-5529

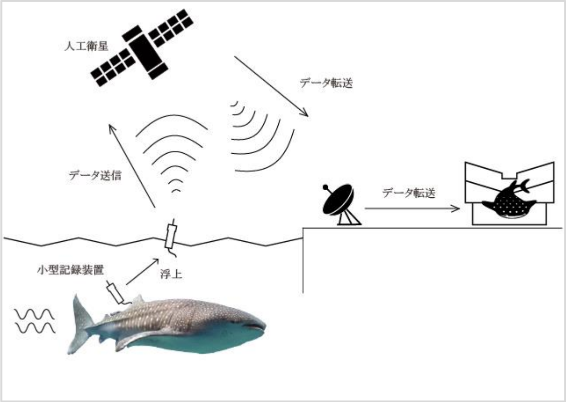
【ジンベエザメの回遊経路調査（バイオロギング）について】

バイオロギング(Bio-logging)とは、生物に小型の記録装置(データロガー)を付けて、その生き物(Bio)が自らの記録(logging)した行動を解析する研究手法です。なかでも観察が難しい海洋生物の海中での行動の調査研究で成果を上げています。
近年、記録装置の小型化やデジタル化などにより、様々な生き物を対象に研究が進み、その成果が世界中で注目されています。

海遊館では、北海道大学とジンベエザメの回遊経路を共同研究しており、2011 年に開始してから毎年ジンベエザメに小型の記録装置を取り付けて放流しています。小型記録装置は、計画した調査期間が経つとジンベエザメの体から自動的に外れ、記録されたデータは人工衛星(アルゴス)を経由して得られる仕組みです。記録する項目は、回遊経路（位置）と遊泳水深、水温です。



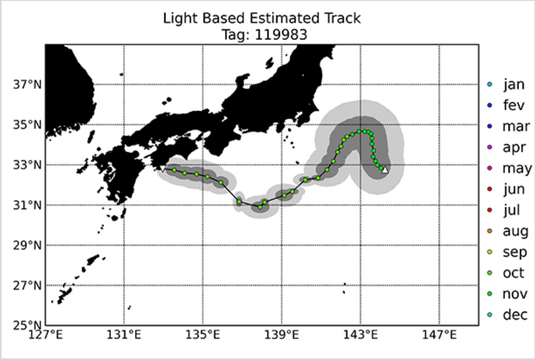
小型記録装置（長さ約 15cm）



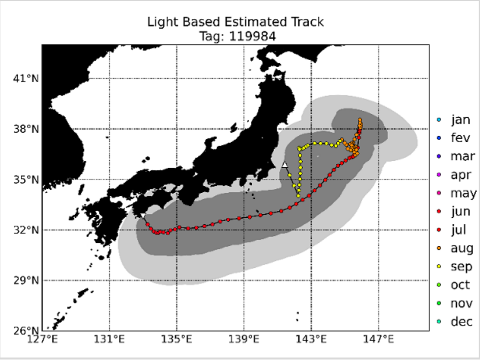
※ジンベエザメの背鰭に付けた小型記録装置が外れて
浮上しデータを送信

【過去の調査結果について】

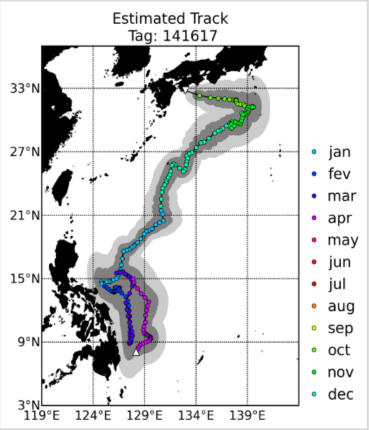
年	開始日	期間	最大潜水深度（m）	回遊経路
2011				データ得られず
2012				同上
2013	10 月 14 日	1 ヶ月	632	高知県以布利沖～千葉沖まで北上
2014	6 月 13 日	3 ヶ月	1,560	高知県以布利沖～東北沖まで北上した後、千葉県の沖まで南下
2015	10 月 13 日	6 ヶ月	1,500m 以深	高知県以布利沖～東へ移動し、黒潮海流に合流する付近で南に方向を変えフィリピン南部まで南下。その後、フィリピン北部あたりまで北上し、再度南へ
2016				データ得られず
2017				同上
2018				同上



2013 年



2014 年



2015 年

【ジンベエザメ　英名 Whale shark　学名 *Rhincodon typus* 】

ジンベエザメは、温帯から熱帯の沿岸および外洋に生息する世界最大の魚類（サメの仲間）。日本近海では、初夏から秋にかけて現れる。体の背面は灰色で白色の斑点が散在し、主に小型の甲殻類などのプランクトンを食べる。最大 10～12m、稀にさらに大きく成長すると考えられている。海遊館では、1990 年 7 月に開館して以来、ジンベエザメの飼育展示を行っている。2019 年 10 月 15 日現在における飼育展示数は 2 匹。

【大阪海遊館 海洋生物研究所以布利（いぶり）センターについて】

1997 年 9 月 24 日、高知県土佐清水市以布利に開設。第一水槽（水量 1,600 ㎥）と第二水槽（水量 3,300 ㎥）を備え、ジンベエザメを中心に海洋生物の生態解明と健康管理、ならびに足摺岬周辺海域における海洋生物の基礎的研究を行っている。現在、イトマキエイや展示例の少ないマンボウも、以布利センターでの健康管理を経て海遊館での飼育展示に成功している。2011 年からは、北海道大学と共同でジンベエザメの回遊経路について調査を開始している。

以布利センターでのトレーニングの様子

2001 年 4 月には京都大学、高知大学と共に行った魚類相調査の成果をまとめ、海遊館から図鑑「以布利 黒潮の魚 ～ジンベエザメからマンボウまで～」を発行した。同図鑑には、ジンベエザメやマンボウの形態や飼育下での生態をはじめ、日本初記録となる「イブリカマス」、「カイユウセンニンフグ」の 2 種を含む 136 科 567 種を収録。「イブリカマス」は、2005 年 5 月発行の日本魚類学会の英文学会誌（Ichthyological Research）で、新種に認められた。

大阪海遊館 海洋生物研究所以布利センター　高知県土佐清水市以布利 539 番 1 地先

【今回の作業スケジュール】（予定）

	時間	新規搬入個体（以布利センター～海遊館）	回遊経路調査個体（海遊館～放流）
10/18	7：00	取り上げ開始	
	8：00	輸送容器に積込み	
	9：00	以布利センターを出発　※陸上輸送	
	20：00	海遊館に到着（西広場にて待機）	
			「太平洋」水槽の水面で専用シートに収容（待機）
		「太平洋」水槽にリリース	
			専用シートから特製水槽に移動
			クレーンで地上へ移動させ、トレーラーに積込み
			トレーラーから輸送船に移動
	23：00		天保山岸壁より出港　※海上輸送
10/19	13：00		データロガーを装着し室戸岬周辺にて放流

※作業の進行状況により、スケジュールが大きく変更となる場合がございます。ご了承ください。